

全力投球！科学の甲子園

- ◆期 日：令和3年3月19日(金)～21日(日)
- ◆場 所：つくば国際会議場及びつくばカピオ（茨城県つくば市）
- ◆参加者：森山 和(24H)・山口寛人(26H)・青木力丸(27H)・高橋実冬(27H)
長徳大智(27H)・中瀬結衣(27H)・橋本大志(27H)・横山愛子(27H)
- ◆監 督：上村武史先生



科学の甲子園。それは全国の科学好きが一堂に会し、己の知識と技術、そしてチームワークを武器に競い合う大会である。私たち2年生8名は、富山県代表として第10回科学の甲子園全国大会に出場した。富山中部高校は今回で8回目の出場であり、私たちは総合優勝を目標に大会に挑んだ。

科学の甲子園では筆記競技と3つの実技競技が行われる。そのうち実技競技③「シャトルウインドカー」は、大会約1か月半前に競技内容が公開され、出場47チームがそれぞれ試作を重ね本番に挑む。様々な方からの助言もいただきながら、私たちはよりよいウインドカーを目指して準備を進めていった。当初は思うようにいかず、このままでよいのかという焦りも感じていた。しかし、とある思い付きがきっかけで方針を変えると記録が向上し、チーム内にも良い雰囲気が出てきた。競技得点の満点を出せる機体が完成してからは、本番と同じ60分で製作する練習を毎日繰り返した。

迎えた本番。1日目の筆記を大きなミスなく終えると、実技①情報でメンバー3人が健闘し、実技②化学では持ち前のチームワークを存分に発揮できた。そして最後はシャトルウインドカーだ。これまでの約40日間にわたる練習を自信に変えて落ち着いて競技に臨み、60分間の製作中も雑談をして緊張をほぐした。結果は満点。7校同率の1位を獲得した。自分たちの手で作ったウインドカーがゴールラインを越えた時、努力が報われた喜びと安堵で思わず涙がこぼれ、抱き合って喜んだ。

実技競技③優秀賞、帝人賞（女子生徒を3人以上含むチームの中での最優秀校）、そして総合成績6位という結果を取ることができた。本校としては5年ぶりの受賞、さらに3つの賞を獲得するのは中部高校史上初の快挙だ。目標であった優勝には届かなかったものの、これまでの成果を存分に発揮でき、私たちは達成感でいっぱいになった。



科学の甲子園を通して私たちが得たものは賞だけではない。放課後も土日も返上し、寝言までウインドカーの話になってしまうほどに夢中になって仲間と努力してきたこの時間は、きっと私たちの財産になるだろう。また、科学の甲子園を通して全国の科学好きの高校生たちとコミュニケーションがとれたことも貴重な経験だった。

新型コロナウイルスの影響で第9回大会への出場が叶わなかった先輩方の想いを胸に挑んだ今大会も、感染症対策に加え地震など異例の状況での開催となった。運営にあたった大会関係者の皆さん、指導して下さった外部の講師の方々、YouTube 配信を通して応援してくれた友人・先生方・保護者の皆さん、9人目の選手のように協力して下さった顧問の上村先生には心から感謝している。この経験を自分たちの将来に役立てていきたい。